

平成 29 年度 民間社会福祉施設職員等海外研修・調査参加報告
～スウェーデン・デンマークにおける障害者福祉の取り組みと処遇状況～

赤穂精華園 成人寮
松井 悠介

1 はじめに

このたび、公益財団法人社会福祉振興・試験センターが主催する、民間社会福祉施設職員等海外研修・調査のヨーロッパ班に参加し、福祉先進国である北欧諸国の障害児・者福祉関係施設を訪問した。そこで利用者の処遇状況及び処遇技術の説明を受け、障害者福祉における取り組みと現状について学んだのでその内容を報告する。

- ・ 研修国 欧州における 2 か国 2 都市
スウェーデン（ストックホルム）デンマーク（コペンハーゲン）
- ・ 研修期間 平成 29 年 9 月 3 日～15 日

2 研修施設

スウェーデン（ストックホルム）

施設名	形態
スウェーデン・クオリティ・ケア	民間企業
ハビリテーリングスセンター・ヤルヴァ	ハビリテーションセンター
ヘッグヴィークス・ジムナシウム	特別高等学校
シヨンダルス・グループポスタード 1	グループホーム
アストラカン・ダーグリガ・ ヴァルクサムヘート	デイアクティビティーセンター

デンマーク（コペンハーゲン）

通訳から、障害児・者福祉のレクチャー	
スヌーズルフセット・ゲントフテ	スヌーズレンハウス
ソフィエスコーレン	保育・教育施設と治療入居施設
イェルペミッデルセントレット	補助器具センター
スヴェーネヴァイ	軽度障害者の就労施設と メディアスクール

3 研修内容

(1) スウェーデン（ストックホルム）

① スウェーデン・クオリティ・ケア (Swedish Quality Care)

民間企業であり、大学や自治体などがそれぞれのノウハウやシステム、プ

ロダクトを広く世界に貢献するために2007年に設立した。医療・福祉・教育などの分野において、視察や研修、実習プログラムを専門に手配しており、本研修では、スウェーデンの障害者福祉事情に関してレクチャーを受けた。

スウェーデンでは、国民運動の歴史が長く、障害者団体の社会への影響力が強い。1980年代から大型福祉施設の解体が進み、1994年には全ての大型施設が解体され、国の補助を受けながら在宅とグループホームに移行した。

「患者から市民へ」障害者の人としての権利が尊重されるようになる。

② ハビリテーリングセンター・ヤルヴァ (Habiliteringscenter Järva)

県が運営する施設であり、地域の障害者（身体や知的、自閉症など対象者は多岐にわたる）のハビリテーションを行っている。「リハビリテーション」が、何らかの理由で低下した能力や機能を回復することを意味するのに対して、「ハビリテーション」とは、障害者が日常生活で直面すると思われる困難を軽減する。そして、新たな機能やスキルを獲得していく取り組みを指している。そのために、各専門職（ソーシャルワーカー・心理士・セラピスト等）が連携し支援を行う。

③ ションドルス・グループボスタード1 (Sköndals gruppbostad 1)

知的障害者のためのグループホームで、集合住宅の一部が施設になっており、施設以外は一般の住宅である（建築時に市の要請により、グループホームを含めることが義務づけられていた）。重度障害者も入所しているため、職員は24時間体制で、夜勤職員も配置されている。トイレや浴室は広く、設備は整っており、ベッド周りには天井リフトが完備されている。16歳までに知的障害者であると認定された方が対象であり、市よりグループホームの利用が必要と認められれば、空き状況の中からグループホームを選択できる。家賃や食費は自己負担であるが、障害年金で賄うことができる。



施設（集合住宅）外観

④ アストラカン・ダーグリガ・ヴァルクサムヘート

(Astrakan Daglig verksamhet)

一般就労が困難な知的障害者のための市立の通所施設であり、アクティビティグループ（散歩・絵画・体操・音楽療法等）と就労グループ（ローソクやアクセサリーの手工芸品作成等）に分かれて活動している。利用者は軽度から重度まで様々であり、知的障害に身体障害や精神障害を重複している方

も利用している。受け入れ可能な利用者の年齢は原則 20～65 歳となっているが、例外的に 65 歳以上の方もいる。

(2) デンマーク（コペンハーゲン）

① スヌーズルフセット・ゲントフテ（Snoezelhuset Gentofte）

デンマークにある 9 つのスヌーズレンハウスの一つ。2002 年に設立した自治体の施設で財源は自治体と入場料収入（1 時間約 7,000 円程度）である。それぞれに感覚刺激が異なる 5 つの部屋があり、知的障害や自閉症、認知症、脳卒中患者等を対象としているが、一般市民にも提供されている。スヌーズレンはオランダが発祥で、認知症や発達障害児、心理的ケアの必要な人などの治療においてその効果が実証されてきている。

② スヴェーネヴァイ（Svaenevej）

軽度の知的・身体障害者を対象としたコペンハーゲンにおいて歴史ある授産施設で、専門知識を学ぶための学校（メディアスクール）や、就労の場、コペンハーゲン市知的障害者スポーツ協会が一体となっている。

- ・メディアスクール…映画や CM の制作等、メディアに関する様々なことを学んでいる。障害者のための音楽フェスティバルの企画も行っている。
- ・絵画…美術スタッフの指導のもと、絵画の制作に取り組んでいる。作品は展示会で販売しており、ポストカードとしても購入できる。
- ・織物…機織り機にてバスマットや鞆を制作し、販売している。
- ・その他…梱包作業や、施設内のカフェでの調理作業、園芸作業（芝生の手入れや木の伐採、雑草の除去）に取り組んでいる。

4 おわりに

訪問先の施設は、どこも十分なマンパワーによる手厚い個別支援が行われていた。さらに、情報共有を徹底することで統一性のある支援を行い、職員対応や環境が変わることによる利用者への負担を少しでも軽減できるような配慮が行き届いていた。

また、スウェーデンやデンマークの障害者福祉において、自己決定がとても大切にされており、支援の根幹をなすものであるという印象を受けた。「自分のことは自分で決めたい」という誰しもが持っている欲求や権利を満たすためにはどのような配慮が必要なのか。それが意思の伝達が困難な重度障害者においても、非常によく考えられており、可能性を見出す取り組みが行われていた。そして、それを考え実践することが支援の質と専門性の担保に繋がると感じた。